

さんこう昔話文庫

第3話 馬の石

湯屋文書の「鶴市八幡宮由来根元記」によれば、「三口の井手より遙か川上に、満留石^{みつるいし}という2つの巨石がある。速秋津彦・速秋津姫の二神がこの石に出現した。その時、清波良男人(きよはらのおびと)という人が、この神を尊敬し、衰微したお社を再興した。ある夜、加良須男人(からすのおびと)は、「二神が龍馬に乗り、満留石の上に降臨した」夢を見た。加良須男人は、満留石に行って伏し拝んだ。すると夢のとおり、日月が光り輝くように、龍馬に乗った二神が現われた。加良須男人は、水道神となってお社を造立した。この満留石というのは佐知の馬の草にある」という。

佐知の川原のマノクサ(魔の草・馬の草)にあった「馬の石(別名夫婦石)」は、東にあるのが男石で長さ5メートル、西にあるのが女石で長さが4メートル、高さは共に3メートルを越す花崗岩の巨石である。七所神社の神石として住民に尊崇され、子供の遊び場ともなっていた。ある時石工が、この石を割ろうとして、何か所かに穴をうがった。ところが穴から急に血を吹き出し、石は一昼夜呻吟し、付近の住民は眠れなかった、という言い伝えもある。

この石は、昭和15年8月の福岡県側の河川工事のため、男石が破壊され、女石も昭和30年ごろ破壊された。



【写真：ぶらり八面山より】

割られた「馬の石」の片方は50年の歳月をかけ10km下流に流された。